

TOPICS

1

三朝国際学生インターンシップによる「グローバル人材育成と頭脳循環の活性化」に向けて

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、J-PEAKS事業では国際的な人材育成と頭脳循環の推進に取り組んでいます。今回は、「三朝国際学生インターンシッププログラム（MISIP: Misasa International Student Internship Program）」の一環として開催された「MISIP学術交流会」についてご紹介します。

本学の高等先鋭研究院の一翼を担う惑星物質研究所（鳥取県三朝町）では、国際的な教育・人材育成の取組として、20年以上にわたり三朝国際学生インターンシッププログラムを開催してきました。本プログラムでは、国内外から公募により選考された学生（修士課程および学部3・4年生対象）が、約6週間にわたり、惑星物質研究所において研究者の指導の下、研究プロジェクトに取り組みます。これにより、MISIP参加学生は先進的な研究経験を積むと同時に、多様なバックグラウンドを持つ研究者や大学院生との交流を深めます。本プログラムでは、これまでに31の国と地域から総計196名の意欲あふれる学生を受け入れ、その6割を超える参加者が現在世界各国で研究者として活躍しています。これは、惑星物質研究所を中心としたグローバルな「知」の交流であり、我が国の「国際頭脳循環」基盤の一つとして機能しています。

本年度のMISIP（2026年6月30日～8月7日）では、初の試みとして、MISIP参加学生が本学の総合大学としての研究力の最前線に触れる機会を設けました。J-PEAKSの支援の下、12名の参加学生が資源植物科学研究所（倉敷市）を見学した後、本学（岡山市）で「MISIP学術交流会」を開催しました。

三朝国際学生インターンシップを核とした国際頭脳循環の推進

～ 惑星物質研究所（岡山大学）がつなぐ、世界と三朝の知のブリッジ ～

MISIP開催
レポート
<https://www.misasa.okayama-u.ac.jp/news/4609/>
MISIP活動
Movie
<https://www.misasa.okayama-u.ac.jp/movie/>

交流会では、高等先鋭研究院の異分野基礎科学研究所の西原康師所長、仁科勇太卓越教授、文明動態学研究所の松本直子副所長が、各研究所の活動を紹介するとともに、惑星物質科学との分野の垣根を越えた共同研究について講演しました。また、各研究所に所属する大学院生がそれぞれの研究を紹介し、本学において幅広い研究交流のもとで新しい学問が拓かれていることを、MISIP参加学生と共有しました。交流会の後半には、本学的那須保友学長が参加し、次世代を担う若手人材のグローバルな交流の重要性を強調し、本学として今後も国際的な人的交流に積極的に取り組む姿勢を示しました。また学術交流会に引き続き、本学の先端的研究設備であるクライオ電子顕微鏡を見学したのち、津島キャンパスのL-caféにおいて、本学の留学生らとの交流を実施し、本学の研究教育環境を実体験することができました。

惑星物質研究所は、長年取り組んできたMISIPの考え方やノウハウを、高等先鋭研究院をはじめとした本学全体で共有し、本学の将来に向けたグローバルな学生の獲得や人的交流の促進に貢献することを目指しています。本学術交流会は、MISIP参加学生に本学の研究ポテンシャルを感じてもらおうと同時に、学内での取組共有や新たな事業組成等に向けた良い機会となりました。



高等先鋭研究院のメンバーとの学術交流の様子



那須学長、西原異分野基礎科学研究所長、仁科卓越教授、松本文明動態学研究所副所長と



馬資源植物科学研究所長および植木准教授から研究所の説明を受けるMISIP参加学生



L-caféにて学生交流：本学学生による銭太鼓のパフォーマンスを鑑賞

〇那須保友学長のコメント

「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」という『岡山大学長期ビジョン2050』の実現に向け、J-PEAKS事業は「国際的な人材育成と頭脳循環の推進」を強力に後押ししています。20年以上の歴史を持つMISIPを契機に、高等先鋭研究院の強みを結集した本学術交流会は、若きグローバル人材が互いの多様性を尊重し（インクルージョン）、最先端の学問を共に創発し合う素晴らしい場となりました。未来を見据えて果敢に一步を踏み出す（挑戦する）若い世代のグローバルな交流の重要性を深く認識し、本学は今後も国際的な人的交流に積極的に取り組めます。ぜひご期待ください。



TOPICS
2鳥取県三朝町で耳鼻咽喉科・補聴器診療を開始
～非都市部における持続可能な「聞こえの医療」モデル
の構築へ～

本学は、鳥取県中部医師会立三朝温泉病院、三朝町、鳥取県中部医師会、鳥取県と連携し、三朝温泉病院に耳鼻咽喉科外来を新たに開設します。三朝町には耳鼻咽喉科医療機関や補聴器販売店がなく、高齢者を中心に診察や補聴器の相談・調整のための移動や継続的な通院が大きな負担となっていました。そこで、既存設備を活用し初期投資を抑えた小規模な診療モデルとして、耳鼻咽喉科・補聴器診療を6カ月間試行します。本学聴覚支援センターの片岡祐子准教授が診療を担当し、認定補聴器技能者と連携して、耳鼻咽喉科一般診療に加え、医学的評価から補聴器の導入・調整、その後の継続支援までを町内で受けられる体制の構築を目指します。試行後は受診者数や住民のニーズ、診療・支援による成果を評価し、継続・発展の可能性を検討し、我が国にはない新たな価値を生み出し、社会に還元していきます。

本事業は、地域の既存資源と地域外の専門人材を組み合わせた持続可能な「聞こえの医療」モデルの構築を目指すものであり、J-PEAKSが推進する「Human Health(人の健康)」および「Community Health(地域の健康)」の実現につながる取り組みです。ぜひ、ご期待ください。



(左より)松浦弘幸三朝町長、岡山大学病院 聴覚支援センター片岡祐子准教授(特任)、鳥取県中部医師会立三朝温泉病院・山根隆治副院長、鳥取県中部医師会・安梅正則会長、鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課医療人材確保室・山下直人室長

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15569.html

TOPICS
3

高校生向けSummer Science School 2026を開催しました

高等先鋭研究院の資源植物科学研究所(倉敷市)は、「Summer Science School 2026」を開催し、高校生を対象に、植物科学に関する実験や研究者との交流を行いました。参加者は研究現場で使用する機器や実験手法を体験するとともに、教員や大学院生、留学生との交流や史料館見学も行い、修了時には「未来博士号」が授与されました。本学は、今後も、地域中核・特色ある研究大学として、科学に触れ、研究者と交流できる学びの場を提供し、次世代を担う人材の育成を強化推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15576.html

TOPICS
4

クライオ電子顕微鏡を活用した新たな生化学・分子生物学の最前線～第43回分子病理学研究会、本学J-PEAKS共催講演会～

本学は第43回分子病理学研究会「晴れの国シンポジウム」において、J-PEAKS共催講演会「クライオ電子顕微鏡を活用した新たな生化学・分子生物学の最前線」を開催しました。本講演会では、構造生物学・分子生物学分野での最先端研究が紹介されるとともに、クライオ電子顕微鏡の活用の可能性や研究設備の共同利用、国内研究機関との連携による今後の発展について意見交換を行いました。本学は、今後も、J-PEAKSを活用し、先端分析計測設備や研究基盤設備の整備・共用化を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15568.htmlTOPICS
5

「いつ来るか分からない連絡」を待つ日々に安心を～肺移植待機患者さんの不安に24時間寄り添う対話AIを開発～

本学の研究グループは肺移植を待機する患者さんが長期の待機期間中に抱える不安や孤独感に寄り添うAIピアサポーターを開発しました。AIは肺移植経験者のピアサポーターとして、医学的情報の提供ではなく傾聴と共感に特化しており、患者さんは時間や場所を問わず、自身のスマートフォンなどから気兼ねなく不安や悩みを話すことができます。

本学は、今後も、最重点研究分野であるヘルスケア領域の研究開発を推進し、Well-being社会の実現に貢献します。ご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1598.html

図1: HAILO (Hopeful AI with lived experience for Lung-transplant Online peer support)

TOPICS
6

技術職員間の専門性と知識を情報共有し、スキル・組織力向上を目指す～総合技術部「第89回医学系技術課鹿田研修会」開催～



本学総合技術部は、鹿田キャンパスにおいて「第89回医学系技術課 鹿田研修会」を開催しました。鹿田キャンパス勤務の技術職員が各々の業務内容や専門分野の情報を共有し、日々の業務上の問題解決の一助として活用するとともに、職員間の相互理解や組織の活性化を促進することを目的に実施されました。総合技術部は、J-PEAKSも活用し、全学の技術職員の連携強化、スキルアップを図り、研究・教育・臨床活動などのパートナーとして、取り組みを強化します。

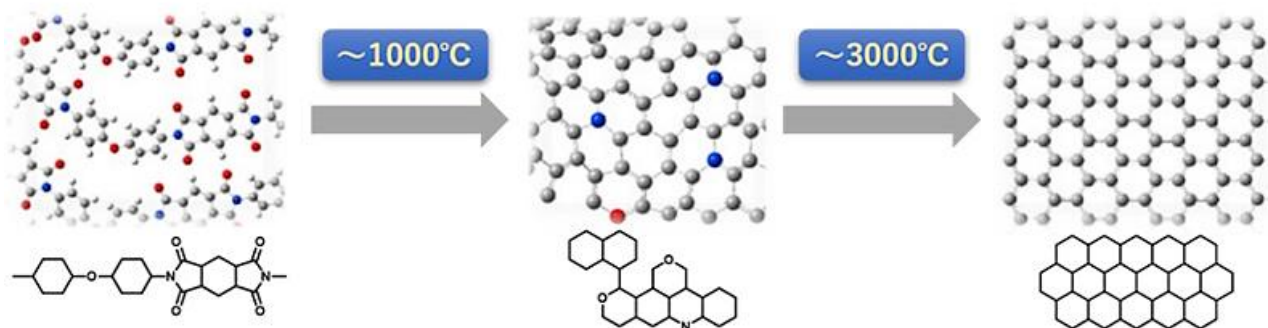
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15557.html

TOPICS

7

有機物を高機能カーボンへ ～分子構造から読み解く炭素化の設計原理～

本学の高等先鋭研究院を構成する異分野基礎科学研究所の仁科勇太卓越教授と京都大学の研究グループは、フェノール樹脂のモデル分子として「ピラーアレーン」を用い、分子の周囲に付ける官能基を変えるだけで、カーボンになるまでの反応経路と、できあがるカーボンの構造・機能が大きく変わることを明らかにしました。経験則に頼ることが多かった炭素化を分子構造から設計するための新しい学理技術であり、未利用有機物を有用な吸着材や導電材へ変換する資源循環技術の設計指針となることが期待されます。植物・光エネルギー開発拠点の先鋭研究者の一人である仁科卓越教授の今後の研究・開発活動にご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1585.html

TOPICS

8

がんは高齢者だけの病気ではない—若い人にも起こる “くちのがん”～AYA世代に特有の特徴と予後を左右する指標を解明～

本学の研究グループは、多施設共同研究により思春期/若年成人（AYA世代：15～39歳）の口腔がんの症例を収集、調査し、AYA世代の早期の口腔がんは高齢者とは異なる特徴を持つことを解明しました。口腔がんは主に高齢者に発症する病気ですが、本研究ではAYA世代の口腔がんは、舌に発生しやすく、白板症のように粘膜表面を広がる病変が多いことに加え、腫瘍の深さ（DOI）が予後を左右する最も重要な因子であることを明らかにしました。本成果は、若年者口腔がんへの理解が深まり、早期診断や適切な術後管理、AYA世代に特化した診断・治療戦略の確立、さらには予後の改善につながることを期待されます。本学は、今後もWell-being社会の実現に向けて、ヘルスケア領域の研究を推進します。

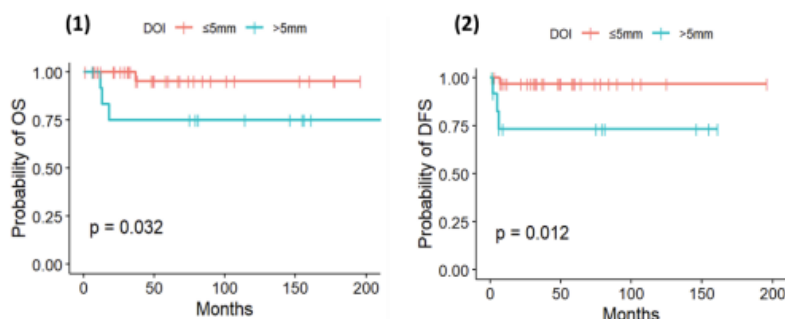


図1. 腫瘍の深さ（DOI）と予後との関係



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1583.html

TOPICS
9

J-PEAKS 特別セミナー第3回「New Horizons in Advanced Materials Science」を開催

本学は、共創イノベーションラボ「KIBINOVE」において、第3回「J-PEAKS Special Seminar: New Horizons in Advanced Materials Science」を開催しました。先進材料科学の最前線を共有することを目的に、学内の研究者らが「有機合成・錯体触媒・持続可能プロセスをつなぐ」をテーマとし、講演と活発な質疑応答を行いました。本セミナーには、他分野の研究者も参加しており、講演の後も続く積極的なディスカッションが行われました。本学の先鋭研究群である植物・光エネルギー開発拠点の分野を超えた研究活動に、ご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15555.html

TOPICS
10

“話しかけるだけ”岡山大学病院、院内独自開発の生成AI対話型サイネージによる施設案内システムを開発



学術研究院医歯薬学域の長谷井嬢教授は、日本語・英語・簡体中国語・韓国語の4言語に対応した対話型AIアバターによる施設案内システムを独自に開発し、岡山大学病院内での運用(実証)を開始しました。遠隔オペレーターを介さず生成AIのみで多言語案内が完結するサイネージを国立大学病院が自主開発・導入するのは、国内初の取り組みです。地域中核・特色ある研究大学として、今後も、社会を変革する研究開発を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1579.html

TOPICS
11

JR沿線の伐採木が備前焼の景色になる～岡山大学・JR西日本・備前焼作家による新ブランド誕生～車窓の景色・備前焼の景色・暮らしの景色を一つにつなぐ

本学とJR西日本岡山支社、備前焼作家が連携し、学生が企画・ブランド開発を担った新ブランド「BIZENYAKI NEO KESHIKI」を販売開始します。JR西日本岡山支社管内の鉄道路線沿線で伐採した木材を備前焼の窯の薪として活用し、木灰が自然釉となって従来にはない新たな「景色」を器の表面に生み出します。地域中核・特色ある研究大学として、地域の多様なステークホルダーとの連携を強化し、地域資源、伝統工芸、大学教育を結び付け、新しい循環型ブランドとして岡山から発信します。

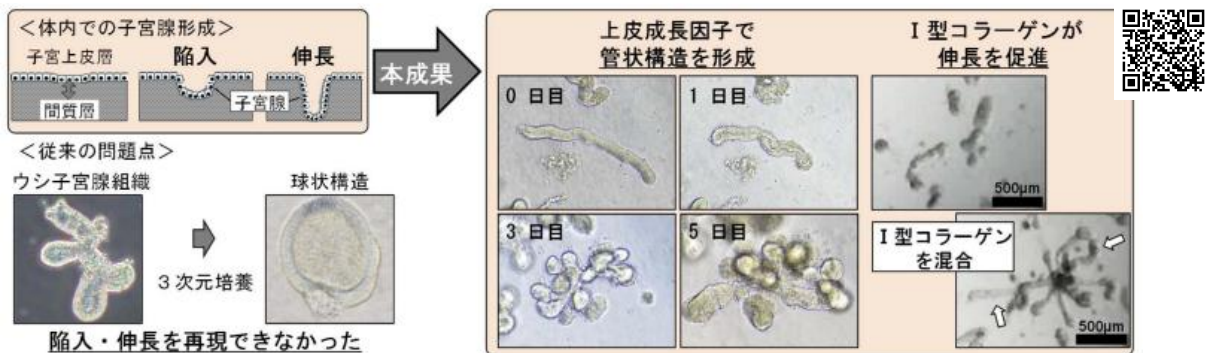


BIZENYAKI
NEO KESHIKI

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1576.html

TOPICS
12子宮腺形成過程で見られる“伸びる”仕組みを3次元培養系を用いて解明
～より体内に近い子宮内膜の体外再現に向けて前進～

本学の研究グループは、ウシ子宮内に存在する分泌組織「子宮腺」がどのようにして伸長するのかを、体内に近い環境を再現した3次元培養法を用いて検証し、その形態制御の仕組みの一端を明らかにしました。通常、3次元培養したウシ子宮腺は球状構造を形成しますが、細胞増殖を促す成分を与えることで管状構造を形成することを発見しました。本成果は、子宮腺の伸長を制御する仕組みの解明に加え、子宮腺を含む従来よりも体内に近い子宮内膜の体外再現、さらには、家畜動物の受胎率向上やヒト不妊治療を目指す新規技術開発への貢献が期待されます。本学は、J-PEAKSも活用し、博士課程（後期課程）に在籍する大学院生を含む研究者が研究に専念できる環境の整備を進めます。

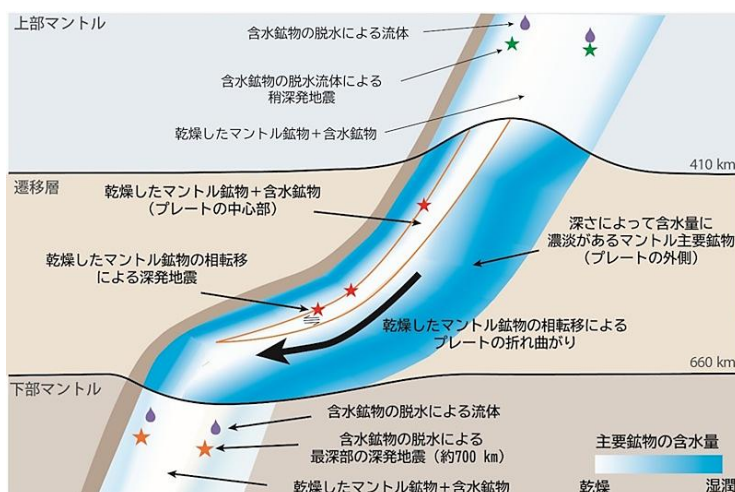


参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1575.html

TOPICS
13

プレート内の“見えない水の流れ”が深発地震とプレート大変形を制御していることを発見

高等先鋭研究院である惑星物質研究所の石井貴之准教授らの国際共同研究チームは、高温高圧実験によって沈み込むプレート内部の「水の移動」が深発地震やプレートの大きな変形に深く関わっていることを明らかにしました。研究の結果、プレートの中心部では主要鉱物が水を失って乾き、外側では逆に水を放出した鉱物によって潤うという、“水の濃いところと薄いところ”ができる仕組みを実験で確認しました。この水分布の違いが、深発地震の発生位置や、プレートが660 km付近で停滞する現象を説明できることが示されました。本成果は地球内部の水循環や深発地震メカニズムの理解を大きく前進させる重要な発見です。本学の高等先鋭研究院を構成する惑星物質研究所の石井准教授の研究活動にご注目ください。

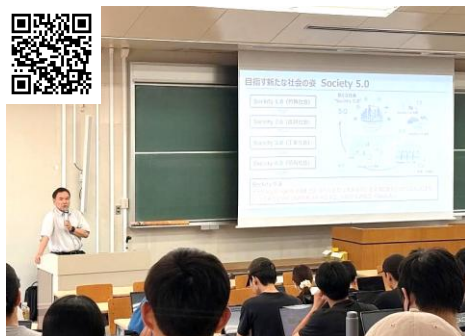


参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1581.html

TOPICS
14半導体業界のスペシャリストを招聘し「企業の技術経営戦略」の講義を実施
～経営戦略論IでJEITA専門家がゲスト講義～

本学が中心となって推進する岡山半導体研究教育推進委員会は、経済学部専門教育科目「経営戦略論I」において、秋山裕明氏（JEITA半導体部会、マイクロンメモリジャパン株式会社）を招へいし、半導体産業の現状や日本の競争力、復活の鍵となる「チョークポイント戦略」についてゲスト講義をいただきました。当日は、130人以上の学生が受講し、技術だけでなく経営戦略の重要性について理解を深めました。本学では、IT・エレクトロニクス分野や革新材料分野を最重点研究分野に設定しており、最先端の研究・技術開発および次世代人材の育成を力強く推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15546.html

TOPICS
15

国連ハイレベル政治フォーラム「第2回国際高等教育シンポジウム」に横井副学長が招待出席および国際連合日本政府代表部を表敬訪問

本学の横井篤文副学長（グローバル・エンゲージメント担当）は、国連本部で開催された「第2回国際高等教育シンポジウム」に出席しました。シンポジウムでは、高等教育機関が公正で包摂的かつ持続可能な未来の形成にどのように貢献できるか、について議論が行われ、横井副学長は「大学はエコロジカルな機関として、人と人との関係、そして人と地球との関係に基づく主体的な行動力（Relational Agency）を育むことが重要」と発言しました。本学は、今後も、国連やユネスコといった国際的な機関との連携を強固にし、公正で包摂的かつ持続可能な未来の形成に向けて貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15552.html

TOPICS
16

綱田錬准教授に岡山大学「研究教授」、浅原孝助教に「研究准教授」の称号を付与



本学は、綱田錬准教授に「研究教授」、浅原孝助教に「研究准教授」の称号を付与しました。綱田研究教授は、自動車・航空機向けの超高速小型モータの研究開発を推進し、世界最高水準の高速回転モータ開発に中核的役割を担っています。浅原研究准教授は、CT検査の画像解析技術を開発し、冠動脈に生じたプラークの成分を数値化し、心臓疾患リスクの客観的評価に取り組んでいます。本学では、J-PEAKSも活用し、研究者が研究に専念できる環境の整備を行っています。二人の今後の研究活動にご注目ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15548.html

TOPICS
17文部科学省・JST「先端研究基盤刷新事業(EPOCH)」
に採択～これまでにない価値を生み出す、我が国の研究
基盤を刷新させる2つの共用拠点を整備強化へ～

本学は文部科学省・国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「先端研究基盤刷新事業(EPOCH)」に採択されました。本事業は、我が国の研究基盤を刷新し、若手を含めた全国の研究者が挑戦できる魅力的な研究環境を実現するため、全国の研究大学等において、地域性や組織の強み・特色等も踏まえ、技術職員やURA等の人材を含めたコアファシリティを戦略的に整備等を実施する事業です(事業期間:本年度から10年間)。本学のプロジェクト統括を佐藤法仁副理事(研究・産学共創総括担当)・副学長(学事担当)・技術副総監・上級URAが担当します。

整備強化する共用拠点は、本学の強みある考古学や地球科学を軸にした「微量元素イメージング×年代分析共用拠点」と、同じく強みあるヘルスケアを軸にした「セラノスティクス共用拠点」の2つです。前者は我が国の文化・地球史の解明における経済安全保障を含めた試料分析の国内完結を実現するとともに、全国に散在している機器・ノウハウなどを本学に集約することでユーザーの利便性の飛躍的向上や機器強化等を図ります。後者はがんや難治性疾患を分子レベルで可視化して根治する診断(diagnostics)と治療(therapeutics)を合わせたセラノスティクス(theranostics)という概念が広がりはじめ、新規医療開発の中心の一つになりつつある分野であり、我が国初の当該分野の共用拠点となります。本学は将来にわたり永続的に我が国の研究基盤を支える、発展させる矜持と責任のもと、決断・実行します。ぜひ本学のみならずEPOCH採択大学にご期待ください。

人的資本による知と技の共創の場が切り拓く、我が国の研究環境・基盤の刷新

～先端研究・経済安全保障の強化促進を担う開かれた研究基盤拠点～

プロジェクト統括
佐藤法仁副理事・副
学長・技術副総監・
上級URA

EPOCHで整備強化する2つの共用拠点

①微量元素イメージング×年代分析共用拠点
(考古学・地球科学の強み)

我が国の文化・地球史の解明と試料の国内完結を実現

【全国散在の機器・ノウハウ等を集約】



世界トップレベルのイメージング・年代分析プラットフォーム
考古学・地球科学・環境・材料・ヘルスケア等に貢献。人文系×研究機器・データ活用の新境地開拓にも挑戦。

試料・データの国内保全(経済安全保障の強化促進)

「知のベースキャンピング」へ



✓「資源配分型の大学経営」から「資産活用型の大学経営」へ
✓高品質な研究基盤の創出と共用、AI・データ駆動による新たな知の創出
✓人材育成・技術伝承の拠点、我が国全体の研究力向上に貢献
✓知から新しい価値を創出できるナレッジワーカーの育成・定着強化
✓共用拠点として「競争」から「共創」、「共にできることは共に」へ

②セラノスティクス共用拠点
(ヘルスケアの強み)

診断と治療の融合による次世代医療の創出を実現

【国内でも稀有な研究基盤拠点を形成】



RI・イメージング・創薬・動物実験・GMP
対応を一体化した研究基盤
創薬開発の加速と新規医療の社会実装にも
貢献
岡山大学病院等との連携型共用拠点整備
海外研究者等招聘で国際頭脳循環も推進

研究基盤の刷新を起点に、我が国の科学の再興とイノベーション創出を牽引。岡山大学は、自身のためではなく、中四国地域から我が国全体を巻き込み、将来にわたり永続的に研究基盤を支え、発展させる矜持・責任のもと決断・実行する

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15603.htmlTOPICS
18カリフォルニア工科大学・下條信輔教授によるJ-PEAKS
特別講演会を開催～ヒト磁気感覚を手がかりに、知覚・
意識・AIをめぐる問いを考える～

本学は、カリフォルニア工科大学の下條信輔教授を講師に、J-PEAKS特別講演会「ヒト磁気感覚は本当か？～心理学史上のスキャンダル、その科学的解決と、AIへの問題提起～」を開催しました。講演では、ヒト磁気感覚研究の最新知見について紹介。潜在学習やAIへの問題提起へと議論が展開され、活発な意見交換が行われました。

本学は、今後も、J-PEAKSの理念のもと、分野横断的な研究力強化と総合知の創出を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15578.html

TOPICS
19

備前発条株式会社が開発の「PRESIDENTITYチェア」をKIBINOVEに展示～産学連携の新たな接点として展示除幕式を開催



本学は、共創イノベーションラボ(KIBINOVE)で、備前発条株式会社が開発した「PRESIDENTITYチェア」の展示除幕式を開催しました。同社が長年培ってきた技術と人間工学の知見を生かして開発した「PRESIDENTITYチェア」が、期間限定でKIBINOVEに展示されます。本展示は本学大学院生の主体的な提案を契機に実現したもので、本展示を契機として、本学と地域企業との交流がさらに深まり、新たな産学共創へとつながることが期待されます。本学では、J-PEAKSの理念のもと、引き続き、「知」を活用して新たな価値を創出するナレッジワーカーの育成を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15554.html

TOPICS
20

がん性腹膜炎治療の新たな選択肢～進行卵巣がんに対する腹腔内化学療法が保険適用に～

本学の長尾昌二教授らの研究成果をもとに、2025年12月に進行卵巣がんに対するカルボプラチン腹腔内投与が静脈内点滴投与に加えて新たな投与ルートとして保険承認されました。カルボプラチン腹腔内投与は、2026年1月から開始した広汎腹膜切除術とともに、卵巣がんにおけるがん性腹膜炎治療の切り札となることが期待され、多くの患者さんの助けとなる可能性があります。

本学は、今後も、Well-being社会の実現に向けて、研究成果の社会実装を通じた地域と世界の社会課題解決に貢献します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1580.html

TOPICS
21

耕作放棄地から「ふるさとミライ」をデザイン！新見市×4大学が夏季集中フィールドワークを初開催～農・食・データ・デザインを融合し、「食べられる森」づくりに挑戦



本学と新見市、岡山県立大学、戸板女子短期大学、大阪公立大学は、総務省「ふるさとミライカレッジモデル実証事業」の一環として、夏季集中フィールドワークを実施しました。耕作放棄地を、生物多様性に富んだ「食べられる森」へと再生するとともに、農・食・データ・デザインを組み合わせ、都市部と地域をつなぐ新たな関係人口の創出を目指すものです。本学は、地域中核・特色ある研究大学として、自治体や地域関係者と連携し、新たな価値創出と地域共創を推進し、社会に新しい価値を創出します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15577.html

TOPICS
22

西日本豪雨で救出された古文書、岡山市に寄贈

本学の高等先鋭研究院である文明動態学研究所所長の今津勝紀教授が代表をつとめる「岡山史料ネット」が西日本豪雨の際に救出した岡山市北区の武藤家文書が、ボランティアの方々との協働による修復と調査を終え、岡山市立中央図書館に寄贈されました。文書には日露戦争に従軍した兵士からの手紙や、醤油の製造やその経営に関する記録などが含まれ、明治から昭和戦前にかけての北区御津地域の歴史を考える重要な資料です。市民への公開や地域の歴史を踏まえたまちづくりへつながる、本学高等先鋭研究院の文明動態学研究所の取り組みにご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1577.html

TOPICS
23中国地域の大学・高専・自治体・企業等が集まる
「令和8年度中国地域産学官連携コンソーシアム運営会議」を開催

本学と鳥取大学が共同で事務局を務めている中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）の運営会議が山口大学で開催されました。さんさんコンソが中国地域の大学、短期大学、高等専門学校の有する技術や知的資源を集約し、企業、行政、支援機関との連携を通じて地域発イノベーションの創出に取り組んできたことが紹介されました。本学は、今後も、地域中核・特色ある研究大学として、様々なステークホルダーとの連携を強化し、地域共創とイノベーション創出を力強く推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15562.html

TOPICS
24奈良先端科学技術大学院大学と包括連携協定を締結
～J-PEAKS採択大学間で次世代セキュアデータ基盤を共創、研究DX・社会実装を加速～

本学は奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）と「研究データ等の利活用に関する包括連携協定」を締結しました。本協定に基づき、研究データ、地域データ、医療・健康データ、産業データなどを安全かつ適正に利活用する基盤を共同で構築し、データ駆動型研究、研究DX、研究開発の自動化・高度化などを推進します。本学は今後も、NAISTとの連携を通じて、次世代セキュアデータ基盤の構築と活用を進め、J-PEAKS採択大学が互いの特色と強みを生かして研究力強化と社会実装を進める大学間連携モデルを構築し、新たな価値を生み出します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15579.html



TOPICS
25

“坂も、砂利も、段差もある。だから走る価値がある”～岡山大学が地図・許認可・保管・宿泊まで一体支援、吉備中央町に自動配送ロボットの実証フィールドを開設～

本学は、2022年に全国で初めて「デジタル田園健康特区」に指定された岡山県吉備中央町を自動配送ロボット・小型モビリティの走行実証フィールドとして整備し、参加企業・研究機関の募集を開始しました。自動配送が「あれば便利」ではなく「なければ困る」地域での走行検証が可能であり、坂、砂利、段差、通信インフラの弱さといった、都市部の整備されたフィールドでは出会えない条件があることも、社会実装に向けた検証の場としての大きな特徴です。参加企業には、3D点群地図やGNSS自己位置マップの提供など、走行検証に集中できる環境を用意しています。本学は、J-PEAKSを活用し、中山間地域の課題解決に取り組み、Community HealthとHuman Healthを実現します。



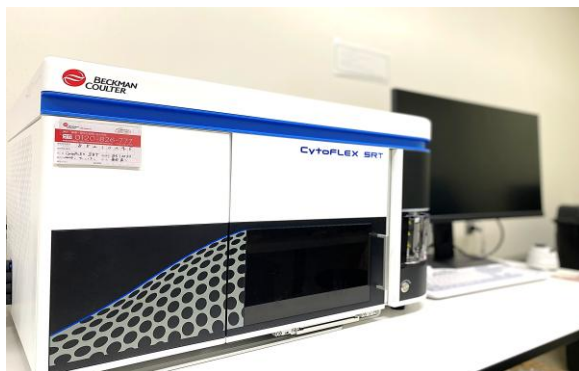
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1578.html

イチオシの研究設備

卓上セルソーター Beckman coulter社製 CytoFLEX SRT

J-PEAKSの取組として、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しており、その一環として、2026年5月にゲノム・プロテオーム解析部門に導入されました。<<https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1435>>。

セルソーターとは、アナライザー機能とソーティング機能がついたフローサイトメーターです。40μm以下の細胞などの粒子をレーザー光に1つずつ通過させ、発生した散乱光や蛍光を検出することで、細胞や粒子の大きさ・内部構造・表面マーカーなどを定量的に解析します。



ソーティング機能によって、目的のサンプルを分取することができ、分取したサンプルは、別アプリケーションに使用することも可能です。自動化技術によってセルソーターの専門知識がなくとも、解析から分取までのワークフローを効率的に実施することができます。希少細胞の濃縮や幹細胞の単離、シングルセル解析、マイクロビーズの分取など、様々な用途でご活用できます。

詳細は、研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル(CFPOU)」の以下のURLをご参照ください。

【問い合わせ先】

自然生命科学研究支援センター
ゲノム・プロテオーム解析部門

E-mail: dgp@okayama-u.ac.jp



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら: cfp@okayama-u.ac.jp

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1435>